

問題【国語】

問1 以下の①～⑧の言葉は歴史的仮名遣いで書かれています。現代仮名遣いに直しましょう。

- ①用ゐる ②ゆゑ ③をかし ④あはれなり
⑤かひなし ⑥たまふ ⑦あやしう ⑧けふ

問2 歴史的仮名遣いで「射る（いる）」の「い」が、ア行「あいうえお」の「い」なのか、ヤ行「やいゆえよ」の「い」なのかどちらなのか答えましょう。

豆知識 雑学コラム

歴史的仮名遣い

日本語は時代とともに変化しています。古文を読むときには、こうした変化を前提に考えなければなりません。例えば、「あわれ」や「かい」と発音する言葉を古文で「あはれ」や「かひ」と書くのは、平安時代から現在までのおよそ1000年の間に音声が変わっているからです。平安時代中頃の発音をそのまま書いたものを「歴史的仮名遣い」といいます。一方、私たちが普段使っている仮名遣いのことを「現代仮名遣い」といいます。今回は「歴史的仮名遣い」についてみていきましょう。

まず、現代仮名遣いでは使わない「ゐ」と「ゑ」。「ゐ」は「い」、「ゑ」は「え」と読みます。小学校のひらがなを覚えるときには出てきませんが、お笑いコンビの「よゐこ」などで見かけ、読み方を覚えた人もいるのではないのでしょうか。

次に、「はひふへほ」は「わいうえお」と読むという決まりです。ただし、例外として「はな」や「ひとり」のように「ハ行」が単語の先頭に来るときは、そのまま「はひふへほ」と読みます。では「朝日（あさひ）」はどうでしょうか。「あさひ」の「ひ」は一見すると先頭ではありませんが、「朝日」という言葉は「朝」と「日」の二つの単語を組合せてできています。そして「ひ」は「日」という単語の先頭です。したがって「朝日」は歴史的仮名遣いでも「あさひ」と発音します。

最後に「かう（kau）」や「さう（sau）」のようにローマ字表記で「au」となるときは「ou」（「かう（kau）」なら「こう（kou）」）にするという決まりがあります。同じように、ローマ字で「iu」となるときは「yuu」（「しう（siu）」なら「しゅう（syuu）」）、ローマ字で「eu」となるときは「you」（「けう（keu）」なら「きょう（kyou）」）と書きます。「ローマ字表記でaになる」とは「あかさたな…」のア段の音のことで、「iになる」のは「いきしちに…」のイ段、「eになる」のは「えけせてね…」のエ段の音のことだとわかると、規則が理解できると思います。

さて、歴史的仮名遣いで「射る（いる）」の「い」が、ア行「あいうえお」の「い」なのか、ヤ行「やいゆえよ」の「い」なのか、どちらだと思いますか。「射る」は「矢（や）を射る」で使う単語で、もともと「矢」に関連して生まれた言葉であるため、「ヤ行」になります。何気ない言葉の一つ一つに仮名遣いの歴史を感じることができるようではないのでしょうか。

【解答】

- ①イ ②エ ③イ ④イ ⑤イ ⑥イ ⑦イ ⑧イ
①イ ②エ ③イ ④イ ⑤イ ⑥イ ⑦イ ⑧イ